

# 子どもが楽しい場に

私は、障害児・者の親たちでつくる福岡市のNPO法人「ニコちゃんの会」の代表を務めています。私自身、重い障害がある娘を亡くした経験があり、子どもも親だ、心豊かな人生を生きてもらうための支援活動を行っています。

## 理想の一時預かりを考える②

理想の一時預かりとはどんな姿か。母親たちを代表して、短期入所を行う施設に話を伺ったマンケートをしたら、「さ、安心・安全」はもちろんだが、「その日(子ども)本人が楽しんで居られること」が数多くありました。今の福祉制度では保たれていますが、この子たちが楽しいこと



森山 淳子さん(48)

もりやま・じゅんこ 1965年生まれ、福岡市城南区在住。障害がある娘を亡くした後、98年、親たちと障害児・者の支援活動を本格的に始めた。2012年11月にNPO法人「ニコちゃんの会」設立。

で、体調が悪くなるとを医師やヘルパーを一時的に配置するのはないでしょうか。昔僕から聞き知りの方が居れば、安心できます。ただそこに置かれているならば親も不安です。できれば、そんな場づくりを担っていただきたいと考えています。

例えば、既存の訪問看護ステーションの二室を借りて、親も子ども顔なじみの訪問看護師かを揃っています。

母親の中には、子どもに重度で専門的な医療を提供する福岡市立子ども病院など、主治医や顔なじみの看護師がそばにいて、医療費が膨らんだ病院に短期入所を望む人もいます。ただ、多くは救急の患者を受け入れる「急性期だから」という理由で、短期入所を行っていません。現在、15歳以下の障害児を短期入所として受け入れる病院は、福岡市内にわずか一カ所と聞いています。

短期入所を実施している病院でも、自宅のようにマンツーマン介護は難しいでしょう。医療機関は、子どもの命がちゃんと守られる状態で預かり、「かれること」をやる」といふ感じではないでしょうか。子どもの体調を維持して自宅に帰す、第一は安全でい

いすれてくる、親のニーズは多岐にわたるので、今は受け入れる施設を増やす、やむなく受け入れられる思いで預ける親がたくさんいます。逆で自身が元気なのだ、入院できずになくなった母親も知っています。どの施設を利用するか決めるのは子どもとその家族です。短期入所の質を高めつつ、「選択肢」をどう確保していくのか。より良い生活の実現に向けて、みんなで考えなければなりません。

短期入所 重い障害児・者を病院などで一時的に預かる福祉サービス。自宅を介護する親たちの負担軽減策の一つ。療養的ケアに対応する施設は「医療型」と呼ばれる。

